

# あまきおぼんじょう

## 「理念の卵」

### いちばんに『住むひと』の1と

皆様こんにちは

今年も残り僅かになり、一年がアツという間に過ぎようとしています。

今年の始めに「変革」と書き初めをし、自分の苦手分野（意識改革を含め）を克服する年にするぞ！と心に決めたのが先月のような気が

します。

少し焦りぎみなワタクシですが、年末の忙しいこの時期を皆様いかがお過ごしでしょうか？

本日は、来年着工予定のM様とのお打合せでした。M様のご両親とは数年前に、弊社がお世話になっている設計

士さんのご紹介で、

親方管理の下、ご自宅を耐震改修させて頂いてからのお付き合ひになります。

このたび娘さんご夫婦にお子さんが生まれ「新居を建てたい」とお話を頂き、娘さんご夫婦と、設計士さんの間で大体の間取りを打合せした

後、図面を作成されたのが約半年前になります。

M様ご夫妻は、家造りにとても熱心で、説明下手な僕の話も真剣に聞いて頂き、お忙しいなか「ものさし塾」にも足を運んで頂きました。

家を造るときに一番重要なのは、「間取り」です。最初に頂いた図面もとても良かったのですが、家事動線が少し使い辛そうで気になったので何枚もプランを考え、打合せを重ねる事で、本日の打合せでほぼ間取りが決定しました。

渡せることができ、使いやすい間取りになったと思います。更に、僕の中で苦手意識の強かった家相も勉強する機会も有り、克服する事が出来たのではないかと感じていきます。

今回、親方の手掛けからお施主さまの世代へと、世代が変化しても我社にお声を掛けて頂いたことで、改めて身が引き締まる思いです。

まだまだ家造りは始まったばかりですが、出来る限りの仕事をさせていたいただき、完成後もしっかりと見守らせて頂くことで「信頼」を築いて行きたいと思えます。

常にこの言葉を思いながら仕事をさせて頂いています。その過程で住む人に喜んで頂けることが、我々にとって一番の喜びであり、工務店という仕事の醍醐味でもあります。自分が出会えた方にはみんな幸せになつてほしい。

自分と出会った人に「出会えて良かった」と言われるようにしていくための言葉です。

人との出会いに、感謝しか無いと思う今日この頃でした。どうぞ皆様、来年も宜しくお願い致します。

みかわ百年の家

プロジェクト

正晶工務店  
星野 基光



最初に頂いた間取りとは少々変わりましたが、仕事量の多い家事をする奥様が家中をキッチンから見

いちばんに『住むひと』のこと。



# 進化する地球中熱住宅

## 「住宅革命」

「エンタルピー断熱2」

深夜電力利用がエコだと宣伝されても、なかなか信じることは出来ない。

深夜電力料金が安い理由は、大企業の工場は

夜になって停止するが原子力発電所は24時間稼動しているから電力が余ってしまう。その余った分を無駄に放電している状態が現状としてあるから、安くし



蓄熱と吸放湿資源

この壁には、建築に使用した建材の端材が収められています。これらの端材は、ふつう廃棄処分される時にたくさん熱、有害な排気ガスやCO2などを発生します。私たちが百年の家Projectは、その環境負荷を削減すること、さらに室内温度と湿度を安定させることを目的として、これらの端材を間仕切り壁内に収めています。

でも売りたいというのが電力会社の考えだ。そもそも初めから深夜に放電してしまう分の料金まで昼間の料金で稼ぎ出していたのに・・・だから安く売れる事が出来る。

1970年代にオイルショックというのがあった。

OPECの原油価格引き上げ宣言や中東の戦争による原油高騰で世界中がパニックに陥った。

全て人為的な原因によるものだった。この時日本ではテレビ局が深夜放送を自粛したりしたものだ。

現在では地球規模の温暖化が人類の破滅に繋がると危惧する報道が相次いでいるにもかかわらずテレビは朝まで放送され、深夜電力を

ほとんど使えという。地球の温暖化が人類の廃棄する物質や熱によるものだと主張している面々の意見では、間違いない。温暖化に貢献してしまいう行為なのではないか。

温暖化の原因が人類起源のものかどうかはさておき、省エネルギーを進めることは良いことだ。ただし、正しい省エネルギーをするべきだ。

正しい省エネルギーとは当たり前のことだけ。省エネルギーの消費を減らすことでしかない。

高山邸の間仕切り壁の中に仕込む蓄熱材料は全くとお金がかからず、効果的で、安全で、社会貢献度がとても高いものとなる。それは何かというと、内装下地材として使用するプラスチックボードの端材、柱や梁の端材、床板や下地合板の端材などである。

これらの端材は、通常は産業廃棄物として、最終処分場へ運ばれ、処分される。産業廃棄物の処分にはお金とエネルギーがかかる。産廃処理業者はガソリンを消費して廃棄物を処分場へ運び、賃金を稼ぐ。処分場では重油を消費して廃棄物を処分する。廃熱と排気ガス(CO2やSOxやNOx)の発生を伴う。

捨てるしまえば有害ガスや熱を出しお金を浪費する建築廃材も、蓄熱・吸放湿材料として壁の中へ仕舞い込めば、永久に働く蓄熱・吸放湿材となり、排気ガスも出ないし、産廃処理費もゼロになる。まさに三方よし。一石三鳥も四鳥も働く。しかも材料代は捨てるものとして考えればただと言ってもよい。

通常ならば空洞の間仕切り壁に質量の高いものが入ると蓄熱・吸放湿だけでなく、防音効果が増し、隣室の音が漏れにくくなる。

若干コストをかけて、若くは接着してやれば住宅の耐震強度を増すことも出来るかもしれない。

まさに良い事尽くめなのだけれど、一般の工務店や大工さんたちはこんなことはやらないはずだ。壁の中にごみを捨てたと揶揄される事を恐れるから・・・

50年後、いや100年後にその家が解体され、壁のなかから建築廃材が出てきたら、未来の建築家たちは正しい評価

をしてくれるかどうか。その頃の建築はどこまで進歩しているのか興味は尽きない。

幸か不幸か、間仕切り壁の中の空間を全て満たすだけの端材は発生しないので、完全満タンは蓄熱・吸放湿材としての資材を購入しないうる限り不可能だけれど、仮に満タンとした場合をざっと計算してみると、その容積は40坪の家で、なんと15立方メートル及ぶ。これを建築物の構造体の容積と合計すると優に30立方メートルを超えてしまう。

いったいどれほどの蓄熱と吸放湿を期待できるだろう。

ああ、そんな家を創ってみたい。



岡田 好勝

フライングシードこと岡田先生のブログは、楽天「記憶の記録」へ

# 実践躬行

十月、「日本一暑い町」として知られている、埼玉県熊谷市まで「百年の家プロジェクト」主催のDJSセミナーに行ってきました。

「百年の家プロジェクト」主催のセミナーに参加させていただけのは今回で4回目です。

1回目は北海道の網走セミナー、行ったのはたしか4年前の3月で、網走の流水祭りが終わった直後でしたが、極寒の地で、実際に住宅に地中熱を利用しての現場に案内して頂

この時が「百年の家プロジェクト」に入ってしまったのですが、それまでの半年間は、言い方が悪いか



もしれませんが、僕にとつては机上の空論「本当にそんなことが出来るのか？」という疑問ばかり。そんな中、この網走セミナーに参加し、実際に自分の肌で感じ、温度計でも計測することで、やっと自分の中で確信に変わりました。

このセミナーは僕にとつて大きな転機でした。

お客様に提案する住宅の方向性が、このセミナーから大きく変わったと思います。

2回目は、3年前の夏に今回と同じ埼玉県熊谷市へ。「百年の家プロジェクト」顧問の岡田先生の自宅や施工物件

## カーテンは閉めるな。

作：天才がるる

すごい結果、おかげで窓の下がカビで汚らわて〜

カーテンが部屋の暖かさを断熱

カーテンと窓の間の空気は、外の寒さの影響を受け、温度が下がる

外気 0℃

カーテン内 5℃

室内 23℃

湿度 99%

23℃の室内で99%の水分をもち空気は12℃の露点を境に結露してしまふんだ。今更5℃ほど下がっているから99%の水が出てたんだ!

高性能のガラスでもカーテンを閉めると結露がひどくなってしまふんだ。おまけとしてはカーテンを閉めずに雨戸やシャッターを閉めたり夏のヨソを外に閉めるのがいいよ

を見学させてきた。実際に毎月の研究会で勉強して、色々な

所に活かされている、ダウンドラフト（冬にカーテンとサッシの間の空気がガラス面で冷やされ比重が重くなり、降下して床付近を冷気が流れる現象）対策の間接照明は特に印象に残っていて、実際に当社物件でも早速取り入れ施工しました。

3回目は愛知県三河地区「みかわ百年の家プロジェクト」の方々の施工物件を見学させて



せていただき、各工務店さんの様々な工夫・アレンジ、在来工法以外の鉄骨造の「百年の家」も見ることができ、新しい発見がありました。

半年に1回程行われているセミナーですが、参加自由なので、今回の埼玉県熊谷市セミナーは、僕自身2年振りになりました。

2年振りの参加の動機は、前3回同様「新しい発見」を求め

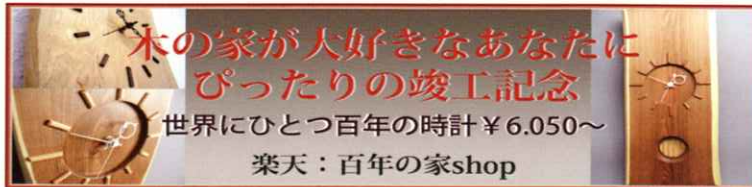
ての参加でした。この「新しい発見」は当社みたいな小さな工務店は特にメリットがあり、何と言っても、オカトミさんや多くの百年の家メンバーが実際に現場で思考錯誤しながら生まれたアイデアが惜しげもなく見られてしまう事。

それらは、カタログや説明書などどこにもありませんが、どこかのメーカーが売るために実験室でできた格好しい新製品とはまったく別物。嬉しいことに今回も「新しい発見」が数多くありました。その内容は・・・

次回施工物件「進化的地中熱住宅」ということで・・・



みの百年の家プロジェクト  
長尾建築  
長尾 友晴



# 停滞は老化

タバコの値上がりから2ヶ月で、タバコをやめるのをやめた人が約三割。

百年の家プロジェクトでは、過去30人以上のメンバーが禁煙に成功しています。健康住宅を建てている人間がもしタバコを吸ってたら、そんな工務店は誰からも信用されないからですが、そんな当たり前前のことでも吸って知らんぷりをしていく工務店が多いのが現実。でも禁煙は、ニコチンの中毒性と現状維持パイアスの二重の包囲網で守られているので、抜け出すのは容易ではないらしいです。

「人は現状にそれほど大きな不満が無い限り、変化を回避しようとする」

「変化するという事は、得か損かの二つの可能性をうむため、損をする位なら、今のままの方がいい」という判断をしてしまおう」

心当たりある方もいると思いますが、この「現状維持バイアス」という行動心理は、使いつらいのにそのまま使っているパソコンの設定や、たまには違う所へと思うがめんどくさいのでいつもと同じ店に行ってしまう行動、メニューをあれこれ見ても結局いつものランチ、通勤の道順、買い物の時など、さまざまな場面で効いている、そろばんからパソコンへ変える時、携帯電話から多機能携帯への買い換えなど、高齢になるほどそのバイアスが効いて、結果、やらないとい

う選択をしてしまいがちです。

これらのバイアスを超えるには、例えば70歳過ぎのおじいさんがメールを使えるようになるのに簡単な方法が、「離れて暮らしてる孫とメールできるよ」の一言だったり、恋人と顔見て話したいからiPhoneに変えたり、いつもと違う色の服を着ると若いねと言われたりするような愛情や利便性、興味や喜びこそが、現状維持バイアスという老化から抜け出す秘訣です。

逆に現状維持バイアスに浸ることは、新しい発想や新しい発見、新しい価値、やり方を逃し、成長のチャンスを失うことになりす。

今の僕たちの便利な生活は、このバイアスから抜け出した人が発見・発明した成果によって成り立っ

ており、森を出て、家をつくり、服を着るようになり、狩りの精度を高めたのも、バイアスからの抜けだしがなければ起きえない変化です。

つまり、現状維持バイアスに浸るといふことは「退化」、抜けだしチャレンジすることには「進化」と同意です。

百年の家プロジェクトは、過去のやり方や考え方に囚われることなく、科学的に論理的に研究検討を積み上げ、チャレンジと進化をし続けるという意味を込めて「進化的中熱住宅」と名乗っています。

代表  
百年の家プロジェクト  
杉浦 一広

## 「炭」

15年ほど前から床下の湿気対策に炭を使った商品がたたくさんあります。私もその昔、調湿用炭を売っていたのですが、やめたのは全く効果が無いからです。

どこの先生が何を言おうと、同じ炭を同じ条件下に入れば全く同じ現象が起るのが物理現象。

床下に敷いた炭の下にカビが咲くとさえある事も知

らないで売り歩いた人たちは。問題は根深い。百年の家プロジェクト  
代表 杉浦一広

### 家づくりものさし塾

#### 岡田先生の講演予定

- 平成22年12月18日 島根県松江市
- 平成22年12月5日 群馬県前橋市
- 平成23年2月13日 愛知県西尾市



「春夏秋冬二升五合」が読みたい方は、下記のお届けした工務店か、本部までご連絡ください。

百年の家projectのケータイスайト。QRコードをケータイのカメラで読み込んでアクセス！